

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4710610538		
法人名	医療法人祐真会		
事業所名	グループホーム更竹		
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添1898番地の7		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kalgokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jigyosyoCd=4710610538-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が医療法人敷地内にあり、入居者の健康管理や急変時に医師、看護師との連携が取れ迅速な対応が可能である。同法人主催の運動会、納涼祭、ハリー一見学等多彩の行事に参加し地域との交流が図れる。法人内に温泉大浴場もあり利用者の希望により入浴が楽しめる環境がある。理念に沿ったケアを目標に、利用者の安心、安全な生活づくりに重点的に取り組み実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は法人の病院敷地内にあり、管理者が法人の地域連携室の室長を兼務し、行政や法人病院と連携している。管理者は看護師でもあり、病院と連携して利用者の健康管理に努め、インフルエンザ等感染症の発生事例がなく、利用者や家族にとっての安心に繋がっている。職員の働きやすい環境作りにも努め、日中は外来病院の看護師が利用者と一緒に散歩に出かける支援をし、夜間帯は病棟の看護師が夜勤の職員の1時間の休憩のために応援に来ている。職員ミーティングや勉強会、担当者会議を利用者の午睡時に設定して職員が参加しやすい工夫をしている。誕生日会は基本的に本人の誕生日に開催し、家族も参加している。「頭の中がボーッと不安です」という利用者には、職員が声かけや誘導で行事や活動への参加場面を増やす等、利用者に寄り添うケアの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年1月25日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見えやすい場所に明示しており毎朝職員は、理念確認し業務に取り組んでいる。	「理念」と「職員心得」、「言葉は人間関係の基本である」を事業所内に掲示している。職員ミーティングや運営推進会議で理念についても議題に取り上げて話し合い、職員は挨拶と笑顔で利用者に寄り添い、家族のように接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	医療法人内主催の運動会、納涼祭、ハリー見学等多彩な行事に参加している。 ホーム内に保育園の子供達も訪れ、利用者との交流を図っている。	地域の情報は民生委員から聞いて把握している。利用者は法人主催の敬老会やクイチャー等多くの行事に参加している。管理者が法人の地域連携室の室長を兼務する事で、地域住民や保育園児の訪問に繋がり、利用者との交流が図られ、差し入れ等も受けている。管理者が、地域で認知症サポーター養成講座を年数回実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトで活動し地域への認知症講義を開催して理解を求めている。 平成27年9月職員研修会で認知症勉強会を開催し、地域貢献について話し合う。又同日運営推進会議でも、議題として取り組む。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、地域包括センター担当、家族会代表者、法人代表者、法人総務課長、民生員、入居者代表、家族参加し運営推進会議開催している。運営推進会議での意見は、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者や家族、行政職員（3人以上）、民生委員が参加して年6回開催されている。事業所の状況や外部評価結果等が報告され、事故は口頭で報告し、毎回、外部評価項目を議題に設定して話し合っている。行政職員の不参加が1回ある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護長寿課担当者や地域包括支援センター担当者にホームの実情を報告し指示を仰ぎ協力関係に努めてる。	行政の窓口を訪問して状況報告をし、ホーム便りや運営推進会議の議事録を手渡している。市から認知症サポーター養成講座の講師依頼がある。運営推進会議には行政職員が3人以上参加し、今年発足した市のグループホーム連絡会に参加することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針を示し、職員も身体拘束や行動の制限を行わない支援に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては研修で職員に周知させ、職員は本人の希望を叶える姿勢を持って、利用者の外出には1対1で支援している。リスクに関しては、家族会や運営推進会議で話し合っており、管理者はエレベーターの表示を隠しているテープを外すことを提案している。	

沖縄県（グループホーム更竹）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に関する研修を受け、ミーティングで虐待が起きないように話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の事業者が主催する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、本人や家族にホームを見学して頂きホームでの生活、医療機関との連携体制や利用料金などについて詳しく説明し同意を得て理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃のケアの中で聞くようにしている。家族からは、面会時や家族会、運営推進会議等で聞く機会を設け運営に反映している。	職員は、毎朝挨拶しながら利用者の声を聞き、利用者も職員に親しみを表すようになり、穏やかに過ごしている。年2回家族会を開催して、行事や外部評価結果を報告し、家族の意見を聞く機会としている。家族から、最近事業所が良くなったとの声がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がストレスをためないように、職員相互が気兼ねなく話し合うコミュニケーションの場を設けている。	職員の意見は日々のケアの中で聞いている。運営推進会議の前にミーティングを開催する工夫をして、ミーティングや運営推進会議も聞く機会とし、職員の意見をケアや運営に反映させている。法人内の職員異動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に来られ、職員の業務や悩みも把握する努力している。職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加されている。法人内の研修も参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員との情報交換や他施設を訪問し互いのケアの質の向上について話し合う機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に接する中で、意識的に本人が求めている事を引き出しながら関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、家族に会って家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の事情や要望をもとに、その時点で何が必要か、本人にとってどのように暮らすのが最良なのか見極めて利用開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、穏やかな生活ができる場面を心がけている。昔の生活の知恵など、自宅での暮らしぶりを聞き入れ、教えて頂きながら、家族と同じ思いで、支援し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を見極めながら、外出、外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事等に家族と一緒に参加される環境作りに努め、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも大切にしてきた馴染みの場、行事等本人も参加出来るよう家族との連携をとって、知人、友人の人達にも、遊びにきて頂くよう声かけしている。	出身地へのドライブや馴染みの美容室の利用の継続、定期的な外泊や家族との外食、近所の人たちと会う利用者等の支援をしている。地域社会での関係性は家族から聞いて把握し、友人や知人、親戚等の面会時には利用者と一緒に写真を撮り、利用者の生活歴も聞いたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや談話できるスペースを利用して1人1人が楽しく過ごせる場面を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者でも、定期的に来所し家族との連絡も継続している。米寿祝い等の際は、関係機関を招き、事業所をあげ盛大にお祝いし、利用者、家族との絆のある関係づくりを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、日頃の会話をとおして把握に努め支援に繋げている。	事業所のモットーは、「元気な挨拶と笑顔」であり、全職員に周知させ、職員は毎朝一人ひとりの利用者に挨拶し、「今日は何をしたいのか」を把握して支援している。意思表示が困難だった利用者からも少しずつ声が出てくようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人や家族から聞き入れ、本人を知りケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時に一人一人に何がしたいか確認して、本人希望に沿うケアに努めている。又食事量や排泄の時間、バイタルチェック、観察等で心身状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、ケアスタッフ同席の中、担当者会議開催し、要望、意見を聞き介護計画に意識的に取り組んでいる。緊急案がある場合は速やかに会議開催している。	担当者会議に本人と家族、職員も参加し、医師が同席することもある。各々の意見を反映させ、散歩や部屋の掃除など、個別の介護計画に位置付けて作成している。職員も計画の評価に関わり、毎月モニタリングを実施し、定期的見直しは年1回で、現状に即した随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録ファイルを用意しており、日常の暮らしの様子や排泄状況、食事、水分チェック等、身体状況を記録して介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県（グループホーム更竹）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時は速やかに家族へ電話で報告し相談、面会を促している。受診、入院の回避、早期退院等を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会を結成し地域との連携のもと意見交換している。入居者の安心、安全な生活を送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内にある病院をかかりつけ医とし定期的に職員付き添いで受診している。状態変化時も速やかに主治医へ報告し指示を仰いでいる。他科受診時は、家族付き添いか管理者付き添いで受診し支援している。	家族対応で受診する利用者1人を除き、残りは協力医がかかりつけ医となっている。看護師資格のある管理者が、協力医と連携して日常的に利用者の健康管理に取り組んでおり、これまで事業所内で感染症等の発生事例を出していない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の状態変化時や定期受診日は外来看護師へ報告、相談している。夜間帯の発熱等については法人内の対応看護師に現状報告し適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	手術が必要な時以外は同法人の病院に入院し早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事務所は、終末期にむけて、家族の意志確認をしている。自然の流れで終末を迎えたいとの家族の希望もある。	管理者は、利用者に最良の時間を送ってほしいとの思いで、利用者の状態変化に伴い、家族や主治医等と話し合っている。夜間の医療連携が十分に図れず、常時医療処置を要する場合は病院へ搬送するとしている。職員は、重度化や終末期に向けた支援について、会議等で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人が定期的に勉強会もあり参加している。ホーム内でも急変時の対応について勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を年2回実施している。法人職員も協力参加される。	消防実施計画書を作成し、消防署員や保守管理業者に立会を依頼して昼間想定の実施し、夜間想定の実施は自主訓練で実施している。事業所は地域から離れた場所にあり、訓練は法人の医療機関と連携して取り組んでいる。備蓄は法人で管理している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人一人に対して丁寧な言葉で接していてプライバシーについても職員心得で提示されていて、職員に周知徹底している。	職員は利用者をフルネームで呼び、排泄や入浴時は同性介助を実施している。居室を施錠する利用者にも適宜対応し、「自分らしくありたい」と化粧する方に化粧品を揃える等の支援をしている。飲酒の希望には外出時にノンアルコールビールを飲んでもらうこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に希望を聞き希望が叶うように支援している。若いころのように毎日化粧して綺麗になりたい等の希望もあり、化粧道具、鏡等を準備しケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員朝の挨拶時利用者一人一人にどのように過ごしたいか確認し希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は本人希望を聞くようにしている。外出、行事等の着替えは職員と一緒に考えて化粧やおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは利用者と共に行っているが、法人の管理栄養士の献立によりホームで調理している。入居者の好みの味付けや好みの硬さを工夫している。	食事は、法人の栄養士が準備した食材を利用者と一緒に受け取りに行き、事業所で3食調理している。利用者によっては馴染みの食器を使用している。調査時は職員も一緒に同じ食事を摂っていたが、普段は利用者と時間をずらし各々持参した弁当を食べている。	食事を楽しむことができるよう、利用者と一緒に同じものを食べる機会を持つことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給量を毎日記録している。水分摂取困難入居者に関しては、管理栄養士と相談しイオンゼリーを作り摂取している。		

沖縄県（グループホーム更竹）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に職員付き添い食後の口腔ケアを行っている。口腔ケア困難な利用者はガーゼにてケアを行う。就寝前には、入れ歯洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握チェックし日中、夜間トイレ誘導を行っている。現在オムツ使用者は1名、他8名はトイレ誘導している。	排泄の自立支援は、利用者の個別計画に位置付けて実施している。自身でできる動作の継続を目標に、立位保持や可動域訓練を行っている利用者もいる。オムツ使用の利用者以外は昼夜ともトイレ排泄を支援し、ポータブルの使用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のラジオ体操、リズム体操又レクリエーション等で適度の運動や水分補給を促し便秘気味の利用者はヨーグルトを作り摂取し自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日本人の意志確認し入浴している。法人の外来に温泉大浴場あり希望者は浴槽にて入浴させている。	入浴は週3回を基本にしているが、生活習慣の継続で毎日入浴する利用者もいる。浴室内の環境整備として、夏場は扇風機を利用している。「温泉に入りたい」との利用者の声があり、冬場は法人内温泉の利用もある。入浴を拒む利用者への声かけを最後は管理者が担って入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、散歩の活動で穏やかに安心して就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーや薬剤説明書、内服管理表ファイルに整理し、職員は利用者個々の薬の目的を正しく知り服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や食器拭き、洗濯たたみ、時々はおやつのはやちやちややお好み焼き作り等また気分転換にドライブに出かけている。		

沖縄県(グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光欲をかねて散歩、法人主催されている父の日や母の日のドライブ、ハーリー、浜下り等行事に参加されて楽しみの場を作っている。	利用者は事業所周辺を散歩したり、買い物に出かけたりしている。行事への参加やドライブ等にも出かけている。伊良部大橋を渡り、利用者の家を見に行き、ソバや天ぷら等を食べたこともある。家族の協力で定期的に外出する方や外泊をする利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	島外に家族全員いて、母の欲しいものを買ってあげてくださいとの要望があり、好きな刺身や唐揚げ等を楽しむ支援している。本人管理している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や電話を歓迎していて利用者も自由に使用できるようにしている。ホーム側より島外にいる子供達に電話し本人様と談話できる支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間はバリアフリーでくつろぎの場である。家具の配置、居室に絵画を飾り居心地の良い空間作りをしている。	事業所は3階にあり、吹き抜けになっている居間の両側に居室が配置されている。壁に季節の装飾を施し、仕切り用ボードに誕生日を迎えた利用者の写真を貼って紹介している。利用者はソファや椅子に座ってテレビを見たり、活動したり、寛いだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で入口近くにソファセットを配置して安心して1人や数人で過ごせるコーナーの場所、家族面会時も居心地よく過ごせる空間である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に連絡をとり馴染みの物などを持ち込んでおり居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は、利用者の生活習慣が反映され、持ち込みにも特徴がある。家族が定期的に訪問して嗜好品を補充する居室には冷蔵庫があり、好きな三味線を持ち込んでいる部屋もある。ドアの小窓を覆い、施錠する利用者もいるが、ガラスの小窓から居室内が見える。	居室入口のドアの小窓については、利用者のプライバシーへの配慮が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内外での園芸をしたり日向ぼっこを楽しめる場の環境を作っている。		